

## 昨今「水」事情について

寒い日が続いていますが、いよいよ2月。早くも春の繁忙シーズンが始まってまいりました。更新・管理を中心業務としている私達のチームでは、一足早くオンシーズンを迎えています。従来よりもスケジュールを早め、確実に業務を遂行できるよう、メンバー一同頑張っております。



閑話休題、今日は昨今の「水」事情について、少しご報告させていただきます。

「水と空気と安全はタダ」、高度経済成長時、当たり前のと言われてきたこのフレーズも、首都圏在中の方で、もはや信じている方は少なくなってきたのではないのでしょうか。

2011年一般社団法人「浄水器協会」は、全国の浄水器普及率が39.6%になったと発表しました。はたしてこれは多いのか？少ないのか？

インターネットリサーチのDIMSDRIVEは、2009年の結果ながら、水道水に関するアンケートを以下のようにアップしています。(有効回答数10366人)

「日頃ご自宅で、飲用・調理などで水を使うとき、どのような水を使っていますか？」という質問に対し、「水道水をそのまま」が52.0%、「浄水器を使って」33.2%。「ミネラルウォーターをそのまま」26.4%、「水道水を煮沸して」「水道水を浄水器・浄水ポットに通して」8.7%という結果が出ていました。その他の設備を使ってというものと併せると88%の人が(複数回答有)水道水以外の水を使っていることが解ります。

興味深いのは、「水道水をそのまま使う人」そしてその次に多い「水道水を浄水器を通して使う人」の割合が、地域別で大きく異なるところです。

「甲信越」「北海道」「北陸」「東北」など、水が澄んでいておいしそうなイメージのある地域は、「水道水をそのまま」が74.5~64.7%と高い。一方「関東」「首都圏」「九州・沖縄」では共に44%~45%と半数を切っています。逆に「浄水器を使用」の割合は「甲信越」「北陸」などでは16.2%~17.4%と低く、「関東」「首都圏」では40.5%~45.9%と浄水器利用が多くなる。もちろん、「首都圏」でも「水道水そのまま」が「浄水器利用・ミネラルウォーター利用」に逆転されているわけではありません。しかし、「甲信越」「北陸」などに比べると、「首都圏」では「水道水の味や安全性への懸念」が実感として高く、水道水をそのまま飲むことへの警戒感を高めているということかもしれません。その水源地である利根川水系と相模湖からの取水は汚染が進み、現在の沈殿~濾過方式では飲料水に適さなくなる事は明白です。又殺菌用の塩素の使用も多くなり残留塩素のカルキ臭や、塩素と結びつく「トリハロメタン」の発がん性リスク、水道管の赤錆、水垢による汚れも指摘されています。更に恐ろしいことには塩素で殺菌できない「クリプトスポリジウム」が腸内で繁殖し、激しい下痢・腹痛を発症させ、過去には埼玉県入間郡越生町のほぼ全域で数千人が感染した事例もあります。

それらを背景に、クリクラ・アクアクララなどのウォーターサーバー(装置設置型の水の宅配サービス)の普及も堅調です。以前は、中国の工場か富豪邸宅にしかないものと思われていたウォーターサーバーも、今は首都圏を中心に50万世帯に普及しているといわれています。コストは少々かかるものの、ミネラルウォーターを自分で運ぶ労力を削減する他、浄水器の不満に多いメンテナンスの面倒くささが無い、より安全な水が飲みたいと、高評を得ています。



また 2011 年の東日本大震災以降、安心な水の確保・非常用の水のストックに新規に導入した人が増えています。(ミネラルウォーターの買い置きに変えて、ボトルを少し多めに確保。都度入れ替えていくというのに適しています。)各メーカーが当時早々に放射能に対する安全宣言を出したのも、記憶に新しいところです。



新築マンションの付帯設備では、もはや標準装備となった感のある浄水器ですが、まだまだ逆にその安全性への懸念、(塩素も必要?)カートリッジの交換の煩雑さ、コストの高さを不満にあげる人が多いものです。しかし一方では、家の建替えをきっかけに、水道はおろかお風呂の水まで浄水したい!全館浄水を導入する人達も確実に増加してきています。

新政府の経済対策には期待しますが、世の中まだまだデフレスパイラル。価格破壊・コスト削減の意識は高まります。しかし健康・安心安全への追及も相反して高まり続けているようです。環境保護の意識は中々進まないものの、自身の安全に対してはお金を払うという人が増えています。皮肉にも震災を経験したことにより、放射能を含む、より安全な環境で子供たちを育てていきたいといった、環境に対する意識・志向が現在の「水」事情にも更に影響しているのかもしれない。

では、賃貸住宅ではどうでしょうか?

住まいの総合情報サイト「suumo(スーモ)」で、2010年の調査として「次こそ、絶対欲しい!賃貸設備ランキング」に以下のようなデータがありました。

【ひとり暮らしランキング】では、1位:24時間利用可能ゴミ置場・2位:宅配BOX・3位:TVモニター付きインターフォン・4位:浄水器・5位:ウォークインクローゼット・防犯カメラです。

【ファミリーランキング】では、1位:TVモニター付きインターフォン・2位:24時間利用可能ゴミ置場・3位:ウォークインクローゼット・4位:宅配BOX・5位:追い焚き機能ときて・9位:浄水器となっています。



ちなみに、「あつてよかった、TOP3」は「ひとり暮らし」・「ファミリー」共に第1位はエアコンで、引越し費用の軽減と節電を意識しているものと思われます。

上位設備は当節の生活を考えると納得のいくものばかり、そんな中に浄水器が当然のように入っているのは、少々意外でもありました。トレビノのような簡易的な浄水器を取り付けるより、ビルトインタイプのしっかり浄水器が既に生活に重要と考えている人たちが、増えてきているのかと考えました。

産まれたときからミネラルウォーターの水しか飲んだ事の子供たち・学校の水道の水が飲めない水筒族。日本人独特の潔癖症に現在の健康志向が加わって、ここに極まれりといったところでしょうか。

古い集合住宅は給排水の管理が大変重要です。20年30年を超えた物件は給水施設改修や配管のメンテナンスが物件維持の為に欠かすことのできない課題となります。しかしながら、生活環境や安全への希求から、設備として、生活水・飲料水への更なる要望は高まっていくのではないのでしょうか。まさに「水と空気と安全」を安心なものとして提供する賃貸住宅が必要になってくるともいえます。

従来の設備の改善や空室対策、ひいては将来の物件の優位性を確保する為、設備としての「水」に関心が高まっていること、一考いただければいかがかと思いました。